

データサイエンス 2020年度効果測定 まとめ

平田祥人, 福地一斗, 佐久間淳
筑波大学システム情報系

2021年9月15日

筑波大学の「データサイエンス」

- 2019年度にスタート
- 全学1年生必修(約2100人/年)
- スタートと一緒に、効果測定を実施。

第1回目

- 同意書作成
- 動機に関する質問
 - 授業が楽しみだ
 - 今後の学習・研究に活かせそうだ
- 講義で学習する専門用語が、講義開始前に説明できるかどうか
- 学生の属性
 - 学群・学類
 - 高校の時の数学の履修

第9回目

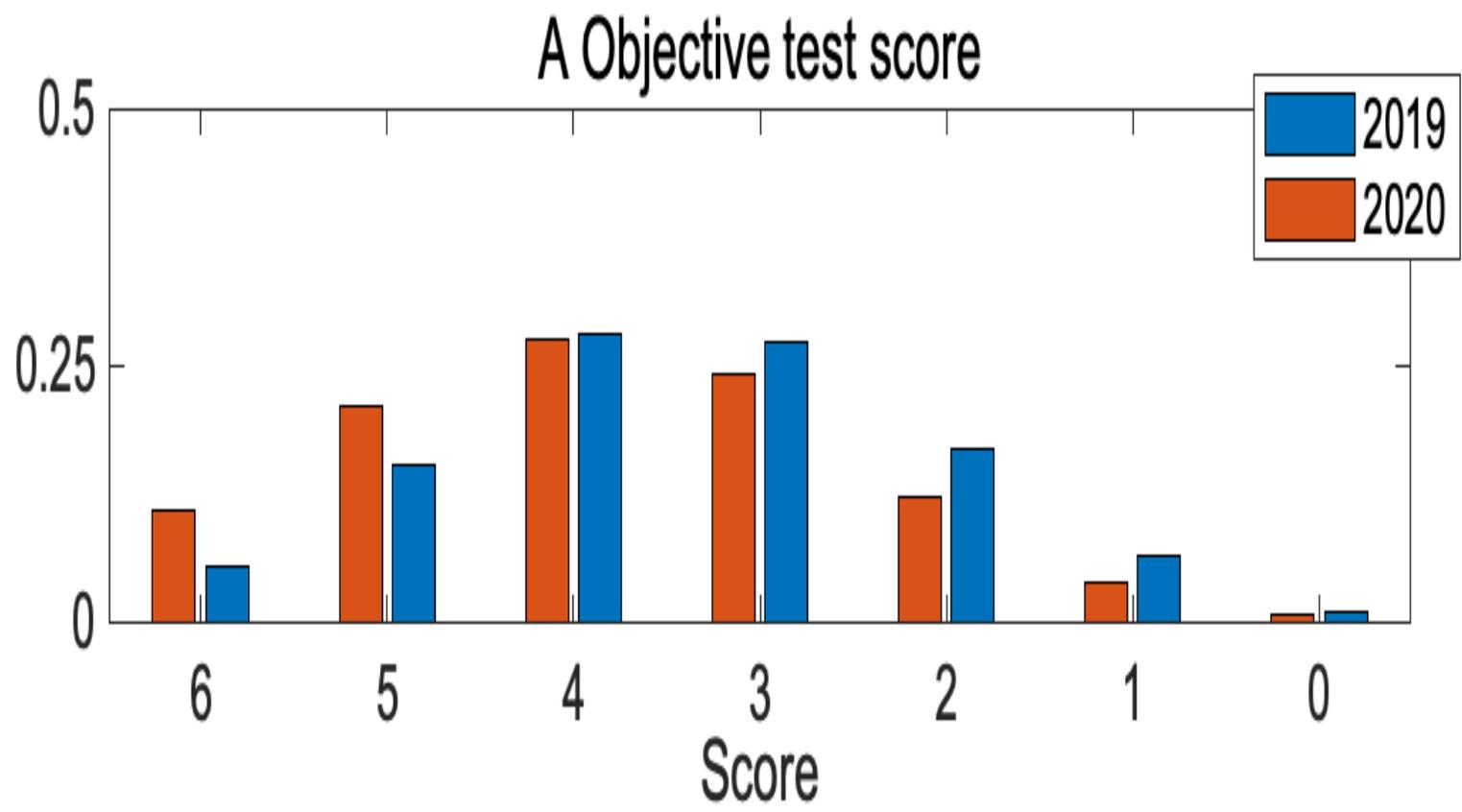
- 授業評価アンケート
 - 授業を通じて、この科目に関連する分野への興味・関心が高まりましたか
 - 総合的に判断して、この授業を受講してよかったと思いますか
 - 主観的な理解度
 - 第1週のビデオ講義が動機づけに役立ちましたか
- 動機に関する質問
 - 授業は楽しかった
 - 今後の学習・研究に活かそうだ
- 専門用語
- 客観テスト

回収率

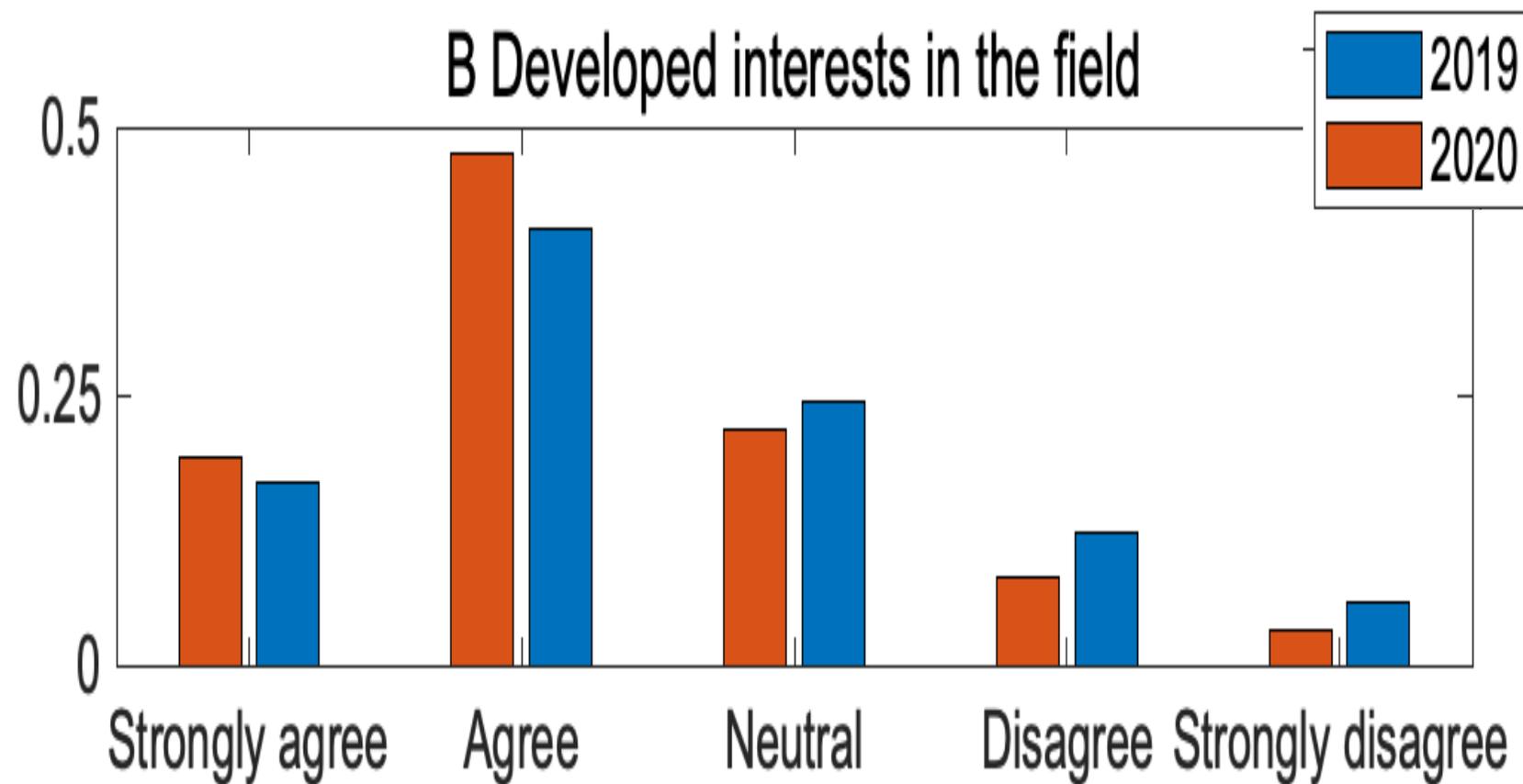
人数\年度	2019	2020
受講者	2175	2152
研究参加者	1757	1493
全設問に回答した回答者	1382 (63.5%)	1028 (47.8%)

2019年度の結果を受け、
2020年度に向けて教材を改善

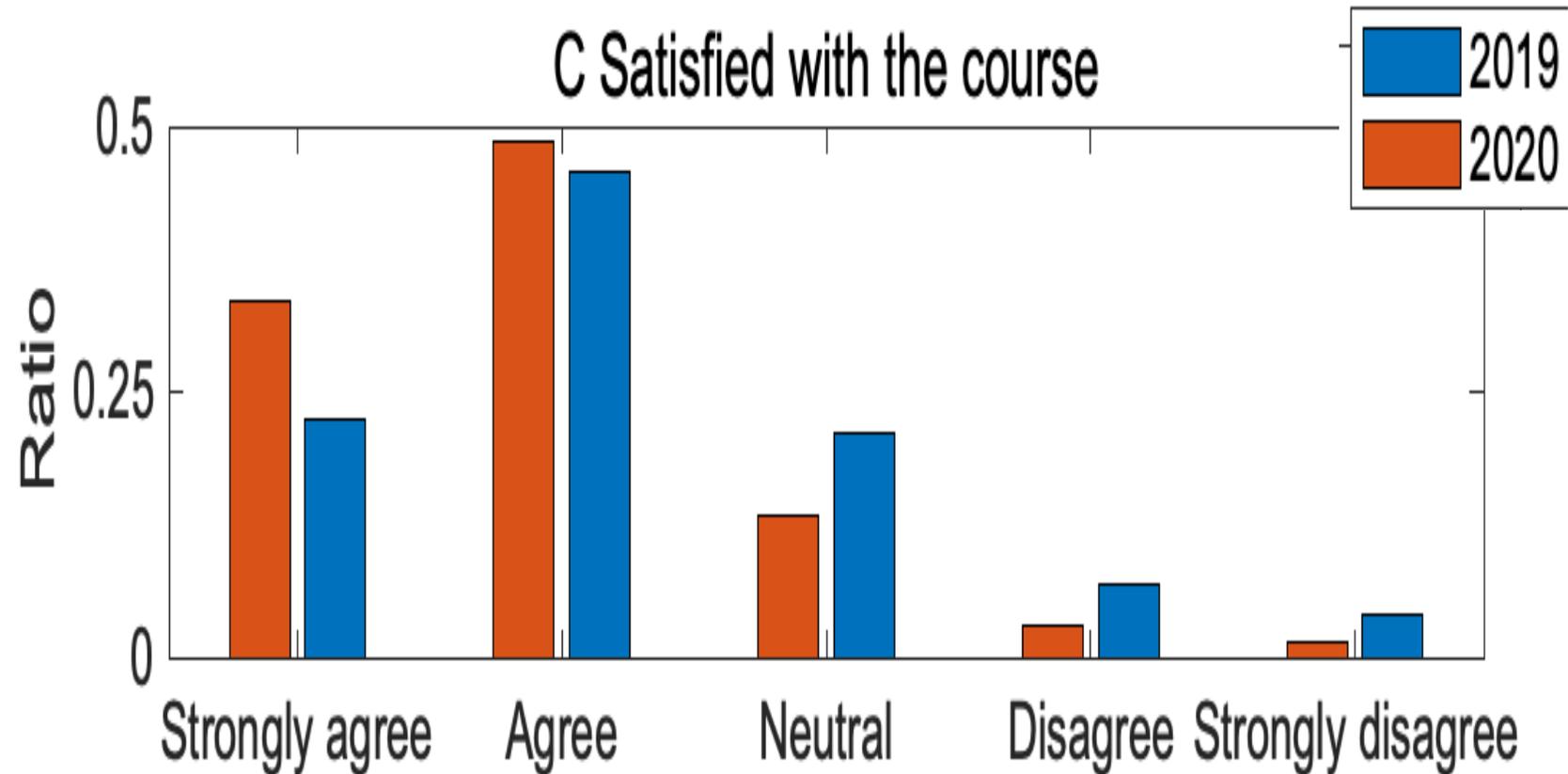
客観テストのスコアが改善



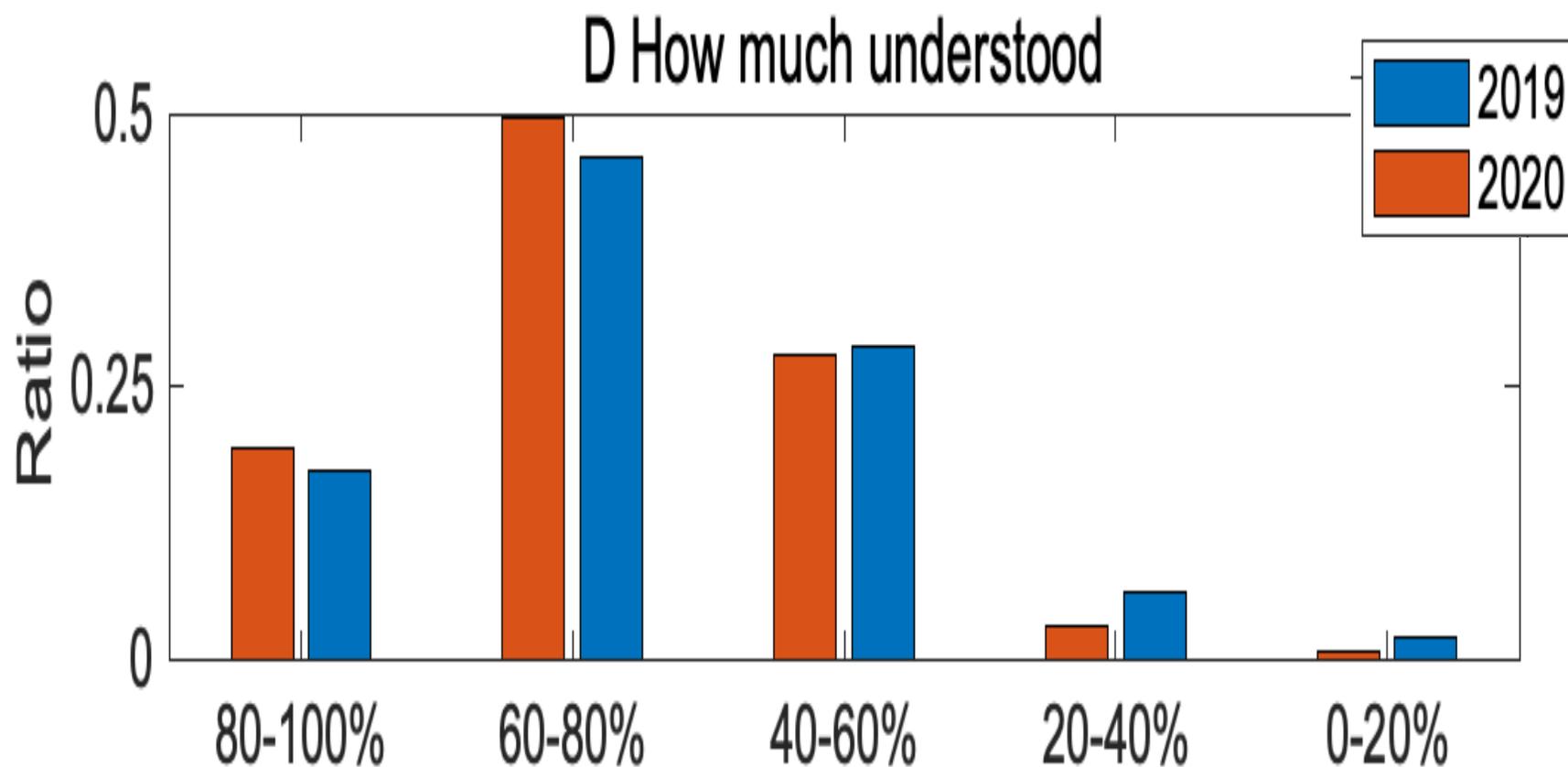
より興味・関心を高めた



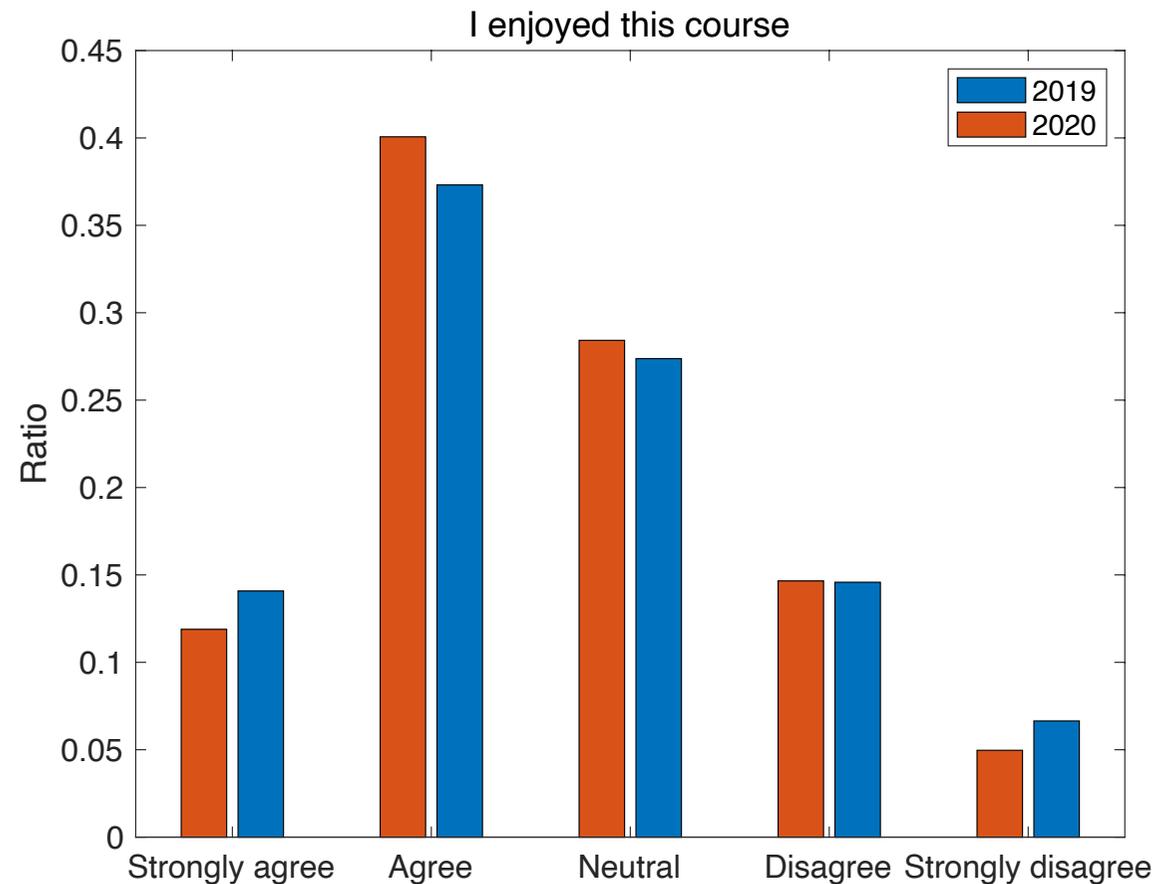
講義の受講満足度が改善



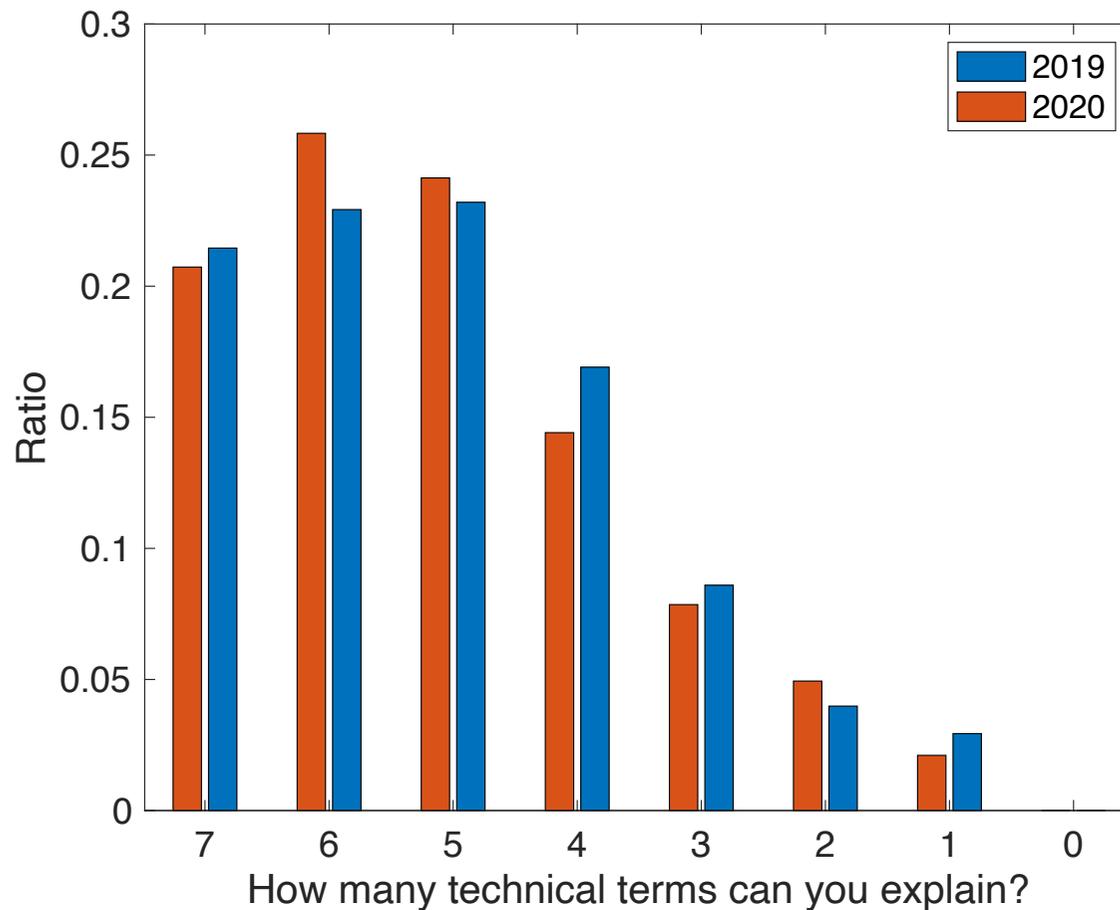
主観的な理解度が、向上。



2020年度:平均的には前年度より楽しめた傾向。ただ、すごく楽しめた割合が減った。



平均的には専門用語がより説明できるようになった。ただ、全ての専門用語が説明できる研究参加者の割合が減少。



2021年度に向けての改善点

- 専門用語をより丁寧に導入する
- 授業をより楽しめるようにする
- 第1回目の導入のビデオ講義で、できるだけ広い学問分野をカバーする